

## 地上天国祭 理事長お話

「地上天国祭」、誠におめでとうございます。

みずみずしい青葉の輝きとともに、七色のアジサイに心引かれる季節となりました。

本日は、全国の信徒の皆さまと共に、極めて意義ある本年の「地上天国祭」を執り行わせていただきましたこと、そして、明主様に対しまして「メシヤの御神<sup>みかみ</sup>」という御神名を教団史上初めて奉称させていただきましたこと、心からの感謝と歓喜をもってお慶び申し上げたいと存じます。

また、「地上天国祭」を前にした5月14日、私共①之光教団は、全国全ての布教区を代表して「京都・滋賀布教区信徒大会」に、本年の「教主様ご巡教」を賜りました。

大会当日は、京都・滋賀布教区の方々を中心に、関西各地の代表の方、さらには、前日に京都・平安郷にて開催された「教主様との懇談会」に参加された中国・四国地方の代表の方々など、約460名の方々とご一緒に、厳粛かつ盛大に大会をお許しいただきました。

教主様には、公務誠に多端の中、私共のためにご巡教くださり、二日間にわたって愛情あふれるご教導をいただきましたこと、そして、信徒の代表の方々からの質疑にも長時間にわたり真心込めるお導きを賜りましたこと、皆さまと共に心より感謝申し上げたいと存じます。

全国の皆さまには、大会における「教主様お言葉」を「真善美」6月号にてお届け致しましたが、併せて、「質疑応答におけるお言葉」を別冊「真善美」として、後日お届けさせていただくことになっております。

明主様がお示しくださっている救いが、人類にとって全く新しい救いであることに、今目覚めさせていただいている私共は、この全く新しい救いの福音を、まず自らがより一層お受けすることができますように、そして、この福音を、一人でも多くの方々にお伝えさせていただけますように、このたびのご巡教にて賜りましたお言葉の全てを大切な学びとし、心の糧とさせていただきたいと存じます。

さて、私は、み教えの神髄をお取り次ぎくださる教主様のご教導をいただく中で、“全てをお生みになり、全てを統轄しておられる神様・主神の方からご覧になられた時、自分は今どこに立たせていただいているのか、”という、本当の神様中心の視点を養っていただいていることに、心から感謝申し上げます。

ております。

ですから、本日の極めて意義ある「地上天国祭」に際しましても、私はこうした思いを大切に臨ませていただきました。

長い間、闇に覆われた世界の中で、無明暗黒のような心の姿を担ってきた私共は、明主様に結ばれて、暗闇に包まれた世界から大光明の燦然と輝く世界への大転換である、「夜昼転換」という「天国の福音」をお受けしていることを知るものとしていただきました。

その上、今私共は、明主様が『はじめて人類は救われる』というお言葉をもって、極めて大切なこととしてお示しくくださった「メシヤ降誕」のご事蹟に結ばれて、神様が大きいなる赦しをもってご自身の子供たるメシアとして人類を新しく生まれさせてくださるといふ、「明主様の全く新しい救いの福音」に目覚めさせていただきました。

私共は、本日、

『大救主の御名は最後の世を救ふ尊き御名なり心せよかし』

『待望のメシヤ生れぬ警鐘をひた打鳴らし世人醒まさむ』

というお歌を奉唱させていただきましたが、明主様が私共に『心せよかし』とおっしゃった「メシアの御名」に込められた、人類にとって最大の福音である「主神の赦し」をお受けしていることに、真っすぐ心に向け、目覚めさせていただく養いを賜っています。

私は、こうした養いをお受けする中で、「自分の思うように、したいように、願うように」ということを叶えていただきたいとひたすら願い、神様の愛と赦しと救いを求め続け、待ち望み、一喜一憂を繰り返してきた自らの堂々巡りの姿に、今多少なりとも気付かせていただきました。

そして、私は、「大光明」のご神体奉斎にお仕えさせていただき、自らのうちに、大光明の光に満たされ、主神の赦しをお受けしている「もう一人の本当の自分」という素晴らしい存在をいただいていることを、まず自らが本当にお受けさせていただきたいと、このようにまず自らに布教することを大切にさせていただきたいと、今強く思わせていただいております。

その自らの姿をもって、神様の愛と赦しと救いが全てのものに及んでいるという福音を、一人でも多くの方々にどうしてもお伝えさせていただきたいという「①之光教団の布教」に、全国の皆さまと共に真心込めてお仕えさせていただきたいと、本日、心いっぱいの感謝をもって神様にご奉告させていただきました。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇さんが感謝奉告をしてくだ

さいました。ありがとうございました。〇〇さんは、「祈りの言葉」による  
“想念の御用、にお仕えさせていただく中での喜びや学びについてご奉告く  
ださいました。

先般のご巡教の折、教主様は、私共の想念について、

私どもの思いは、私どものものではなく、私どもを創造された主神のも  
のです。

私どもの思いを通じてこそ、主神は、全人類を赦され、救われたもの  
としてお受け取りになることができるのです。

だからこそ、主神は私どもの思いを必要としておられるのです。

ご自身の救いを成し遂げるために、どうしても私どもの思いを必要とし  
ておられるのです。

と、このように、私共の思いに込められている神様からのメッセージについ  
てご教導くださいました。そして続けて、

私どもが喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、また、不安、心配、願い、望み、  
あるいは、良いと感じる思い、悪いと感じる思いなど、いろいろな思いを  
抱くのは、主神が、ご自身の救いを成し遂げるために、先祖の方々を始め、  
多くの人々のいろいろな思いを私どもの思いの中に集めてくださり、私ど  
ものの中に様々な心の反応を起こさせてくださっているからです。

そして、私どもと共にすべてのものを天国に立ち返らせ、メシアとして新  
しく生まれさせるという救いを成し遂げておられるからです。

教主様は、私共の思いについて、このようにお示しくくださいました。

私は、「大光明」のご神体をお受けした時、私の思いの全てにもすでに神  
様の光が届き、神様が私のどのような思いの中にも赦しをもって現れてくだ  
さっていることを、大切に受け止めさせていただかなければと思わせていた  
だきました。

そして、今、自分が思わされているさまざまな思いの一つ一つが、実は神  
様が全人類の救いのためにお使いになっている大切な思いであることを、少  
しでも受け止めさせていただきたいと思わせていただきました。

ですから、私は、自らの心に浮かぶ思いについて、教主様をご教導くださ  
いましたように、“（今心に浮かんでいる）こういう世界から私自身を、赦  
しをもって救い出してくださいましたことを、今私に体験させて教えてください

ているのですね、という心で、それがどのような思いであったとしても、神様の栄光の現れとして委ねさせていただくことを大切にするようになりました。

同時に、“神様が今私を（心に浮かんでいる）こういう世界にお遣わしになって、同じ要素を持つ方々の代表として、その方々の思いを私の心に集めて、赦され、救われたものとしてお受け取りくださろうとしているのですね、という心で、やはり神様の栄光の現れとして委ねさせていただき、私に繋がる全てのものを神様にお取り次ぎさせていただく“想念の御用”に、多少なりともお仕えさせていただけるようになりました。

教主様は、このたびのご巡教において、

私どもの思いは、主神にお仕えするためにあるのですから、心の中のあらゆる思いを、明主様と共にあるメシアの御名みなにあつて、主神に委ねさせていただき、主神の思いとひとつにならせていただくことが、明主様の全く新しい救いにお仕えすることになるのではないのでしょうか。

と、ご教導くださいました。

私は、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」はもちろんのこと、浄化という御用にお仕えさせていただく時も、また、日常生活のさまざまな事柄におきましても、自らの心に浮かぶ思いについて、それを自らの思いとして留め終わらせるのではなく、「祈りの言葉」による“想念の御用”とさせていただいて、“明主様の全く新しい救いの福音”に少しでもお仕えさせていただきたいと、今強く思わせていただいております。

私共は、神様が、大いなる赦しをもって私共を天国に迎え入れるために呼び掛けてくださっている「光のお言葉」を、人類にとって最大の福音として心からお受けさせていただきたいと思えます。

そして、本当は、あり得ないほどの赦しを賜ってお使いいただいているのだという“喜びと申し訳なさと畏れ多さ”に少しでも気付かせていただいで、「メシアの御神みかみ」を奉称し、“明主様と共にあるメシアの御名にあつて、”という天国に立ち返らせていただける赦しの言霊を大切にさせていただきたいと存じます。

私共は、こうして“明主様の全く新しい救いの福音”に目覚めさせていただいたものとして、日常生活の全ての事柄一つ一つを「祈りの言葉」による“想念の御用”とし、神様の呼び掛けにお応えさせていただけるよう、本日

の「地上天国祭」を期してより一層、一生懸命お仕えさせていただきましょ  
う。

本日も、こうしてご一緒に、明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあつて、主  
神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、「地上天国祭」  
からの皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう  
お祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。